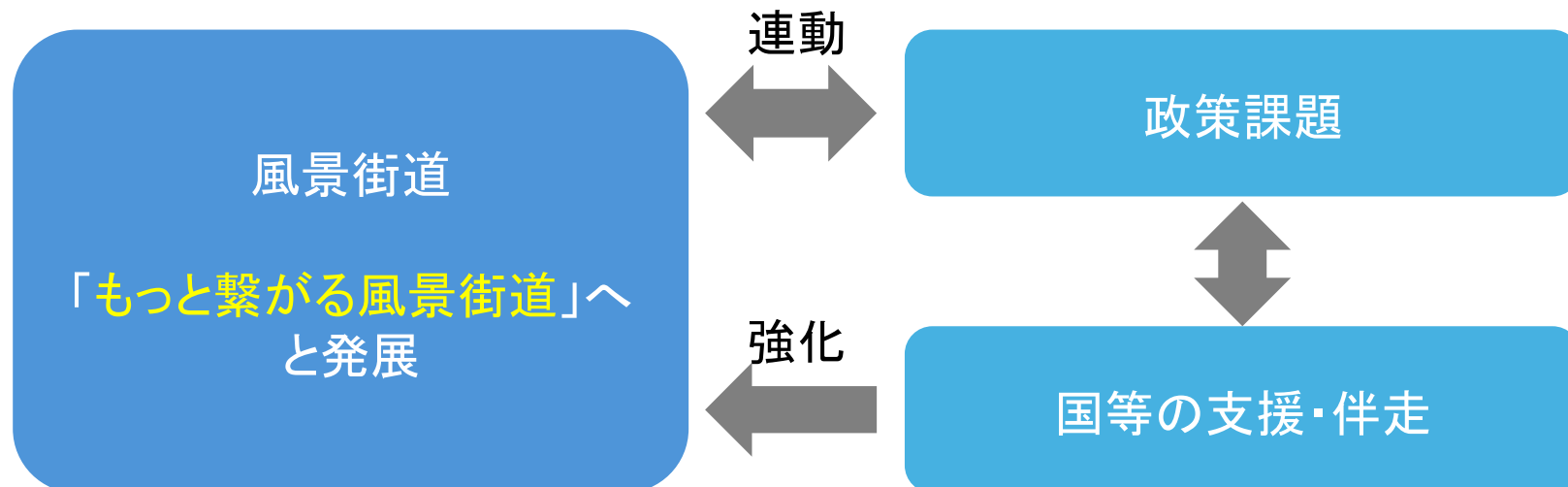


日本風景街道 道路局からの提案

本方向性は、道路管理者の観点から、直接的に取り組みや支援が可能と考えられる主な事項について整理したものです。今後は、有識者や関係者からの意見・提案を踏まえ、より幅広い取組内容へと発展・充実させていくことを想定しています。

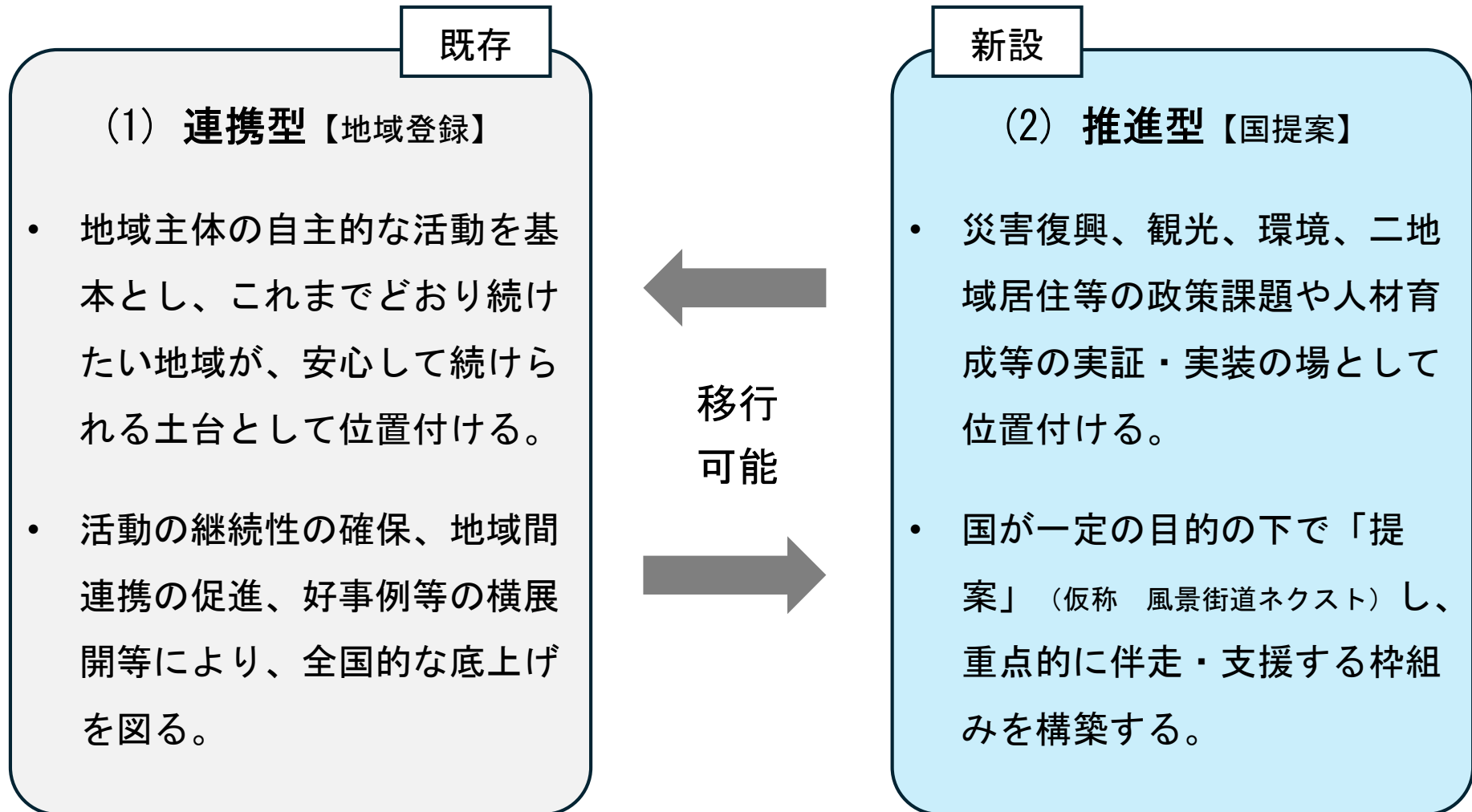
1. 基本的考え方

- 日本風景街道は、地域住民や多様な主体の自主的な取組により、地域の魅力向上や交流の促進に寄与してきたものであり、その根幹は地域の創意工夫と主体性にある。
- 今後は、この自主性を尊重しつつ、社会環境の変化や、能登半島絶景海道が震災後の復興に果たしている役割を踏まえ、災害復興、観光振興、環境保全、二地域居住、地域産業の創出等の政策課題とも連動した取組みを充実し、「もっと繋がる風景街道」へと発展させることにより、風景街道の価値を一層高める。
- これを推進するため、国及び地方公共団体等が明確に支援・伴走する体制を強化する



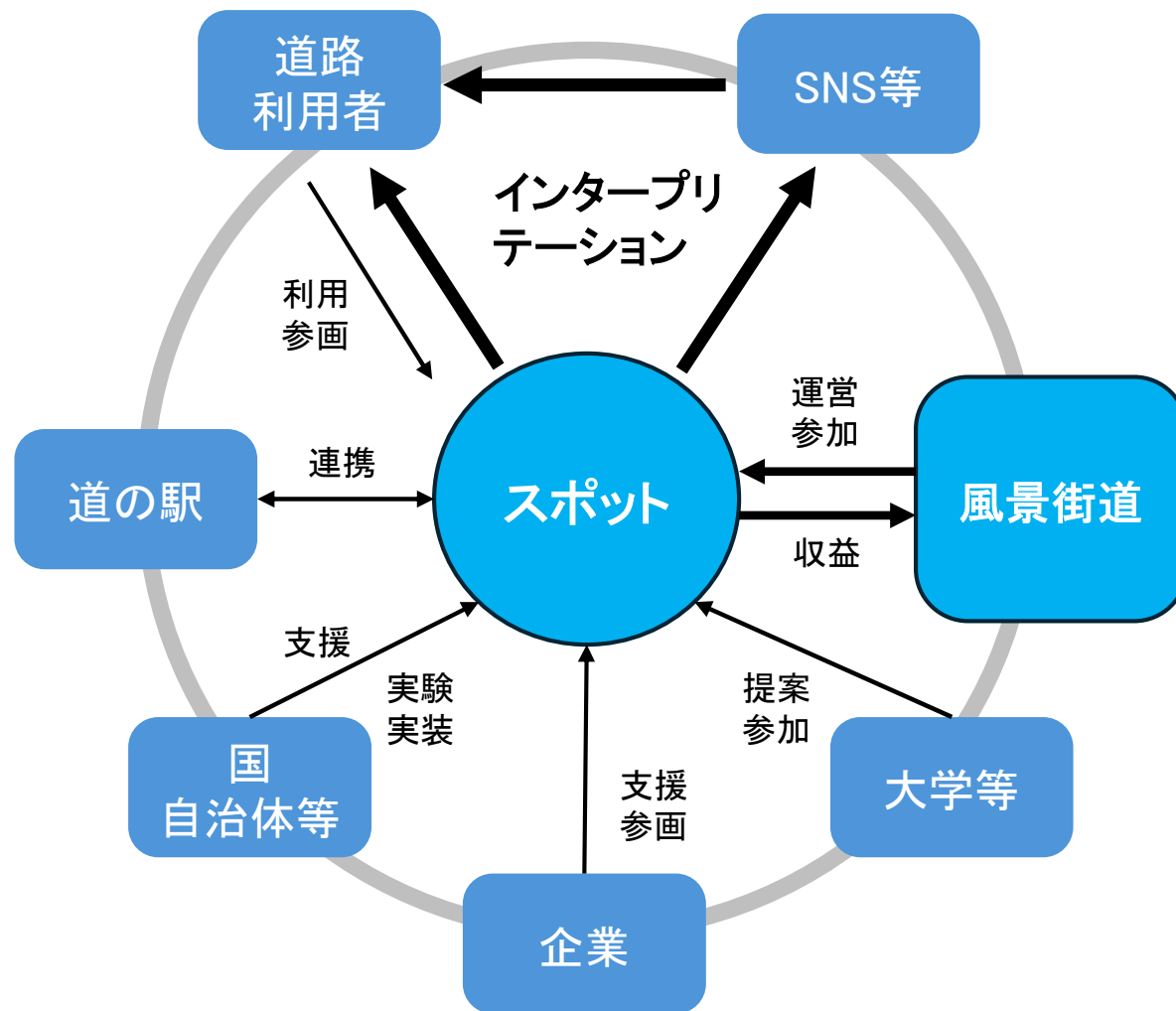
2. 推進の基本構造(連携型と推進型)

- 風景街道の推進に当たっては、次の二つの枠組みを相互に補完させながら展開する。



3. 活動の可視化・インタープリテーション機能の強化

- 風景街道の価値を「見れば分かる」「体験すれば理解できる」ものとするため、単なる情報掲示にとどまらず、自然・歴史・暮らし・産業の背景を伝える「インタープリテーション機能」を持つ拠点（スポット）の整備を推進する
- スポットは、既存の道路空間（簡易パーキング等）を有効活用し、景観と調和した小規模な整備とし、道の駅、大学、企業等と連携し、継続的な進化と持続可能な運営を図る。



(参考) 簡易パーキング等

ビューポイントパーキング



もしもしピット



シーニックデッキ



寄り道パーキング



(参考) インタープリテーション事例



国立公園地域におけるインタープリテーション計画について

(1) 目的と期待される効果

目的

- ①体験の質の向上 ②保護と利用の両立 ③地域活性化 ④ブランディング

効果

- ✓ 来訪者の満足度が向上、ファン・リピーターの増加
- ✓ 豊かな自然環境を基盤とした、地域資源の価値の再認識
- ✓ 地域関係者による主体的な作成・活用・更新にかかる一連の協働により、住民の誇りが醸成されコミュニティが強化される
- ✓ 地域外への営業ツールとして活用できる



(参考) インタープリテーション事例

環境省資料

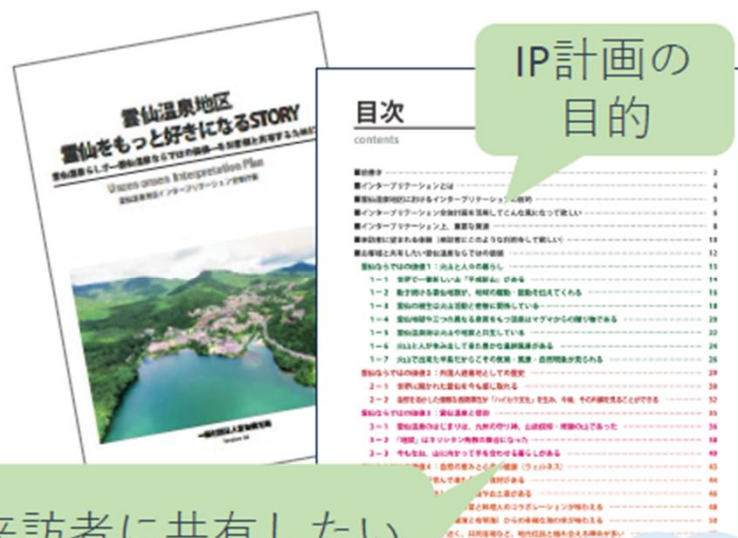


国立公園地域におけるインタープリテーション計画について

(2) 国立公園地域におけるIP計画

雲仙をもっと好きになるSTORY

雲仙温泉らしさ-雲仙温泉ならではの価値-をお客様と共有するために
雲仙温泉地区インタープリテーション全体計画



IP計画の
目的

来訪者に共有したい
ならではの価値

テーマ
(メッセージ/
ストーリー)

その他、以下を含むものもある

- 来訪者分析
- 代表的メディア/プログラム
- ターゲット別 提供メディア・プログラム
- サイン/デザイン (ロゴ・フォント含む)

- 国立公園地域におけるIP計画の作成状況
(2025年3月末現在) ※ エリア型及び施設型の総数。
()内数値は、施設型IP計画の内数

	完成済	作成中
合計	18 (5)	8 (1)

* 「千年の草原を活用した持続可能な観光ガイドライン」(阿蘇)は一式を1件とカウント

- IP計画の事例

対象	名称	作成主体
奥日光 【エリア型】	奥まで日光を好きになるストーリー集	奥まで日光を好きになるストーリー集地域事務局
那須 【エリア型】	那須インタープリテーション全体計画～那須を大好きになるストーリー集～	一般社団法人那須町観光協会
富士山麓 【エリア型】	富士山麓を「歩く旅」をもっと楽しむSTORY	環境省
那須平成の森フィールドセンター 【施設型】	「那須平成の森」自然ふれあい活動全体計画(インタープリテーション計画)	環境省



4. 人材育成及び知の基盤の強化

風景街道の持続的発展を支えるため、次の取組を推進する。

- 風景街道コミュニティを、各地の実践知を集約し、政策と現場、現役世代と次世代をつなぐ「知と人材のハブ」として位置付ける。
- 人材育成を地域任せとせず、若い世代が関わる入口（学び・実践・仕事）を意図的に設計した上で、国が人材育成の取組（いわゆる日本風景街道大学等）を支援し、将来の地域定着や産業創出にもつながる実践的な人材の育成を図る。